

## ■株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日  
定時株主総会  
期末配当金 3月31日  
中間配当金  
(中間配当を実施する場合) 9月30日  
その他 そのほか必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
- 株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (通話料無料)
- 単元株式数 100株
- 公告の方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。公告掲載URL  
[http://www.tok.co.jp/pn/public\\_notice.html](http://www.tok.co.jp/pn/public_notice.html)
- 上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第一部
- 証券コード 4186

## 【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式（100株未満の株式）の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。なお、株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 【株式に関するお手続きについて】

## ○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
○特別口座から一般口座への振替請求	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
○単元未満株式の買取・買増請求		
○住所・氏名等のご変更		
○特別口座の残高照会		
○配当金の受領方法の指定（注）		
○郵送物の発送と返戻に関するご照会	株主名簿 管理人	手続き用紙のご請求方法 ○音声自動応答電話によるご請求 電話 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.muifg.jp/daikou/">http://www.tr.muifg.jp/daikou/</a>
○支払期間経過後の配当金に関するご照会		
○株式事務に関する一般的なお問い合わせ		

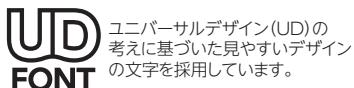
(注) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例配分方式」はお選びいただけません。

## ○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
○郵送物の発送と返戻に関するご照会	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
○支払期間経過後の配当金に関するご照会		
○株式事務に関する一般的なお問い合わせ		
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。	



tok 東京応化工業株式会社

〒211-0012 川崎市中原区中丸子 150 番地  
電話 044-435-3000 (代表)

tok

第85期  
中間報告書

平成26年4月1日～平成26年9月30日

感動を創造する企業をめざして  
tok 東京応化工業株式会社



第85期第2四半期のポイント

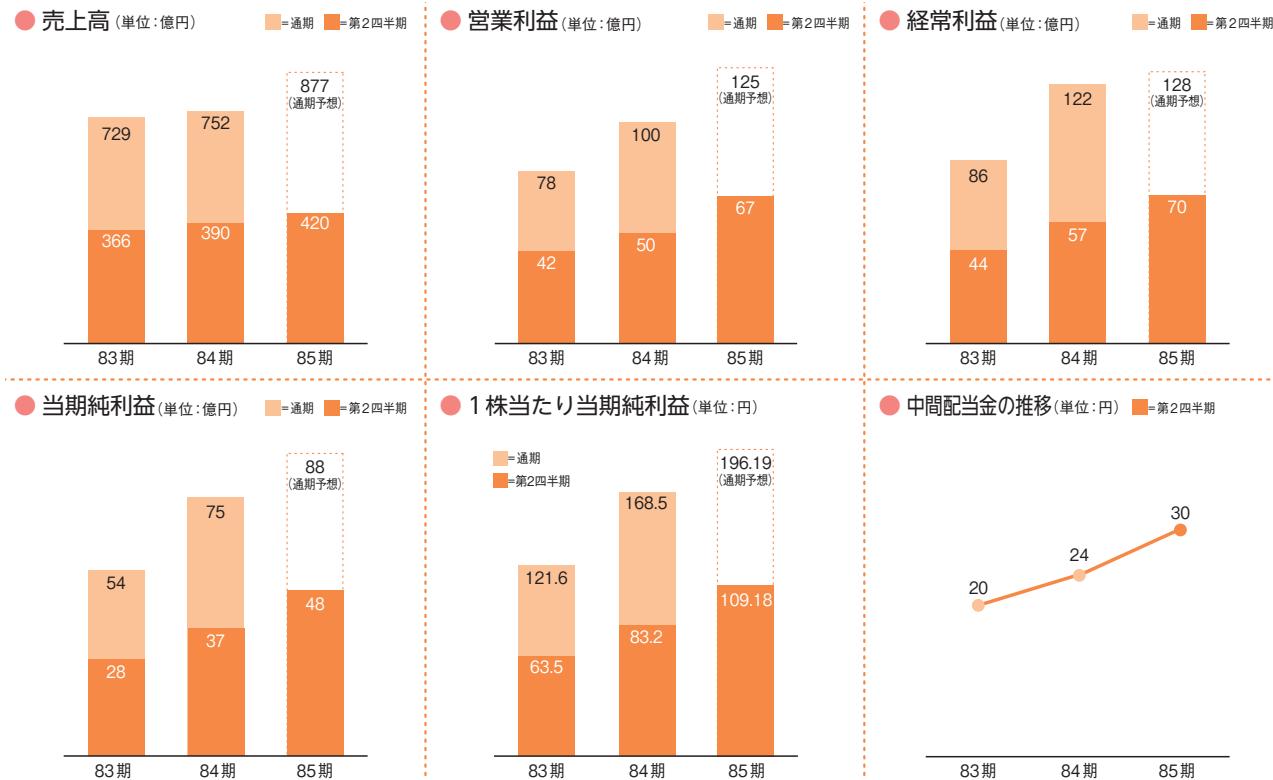
- ポイント ① アジア地域を中心に半導体材料および高純度化学薬品が好調に推移したため、売上・利益ともに増加しました。
- ポイント ② 当期の中間配当金を1株当たり26円と予想しておりましたが30円に、また期末配当につきましても、中間配当と同額の30円の予想に修正しています。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第85期第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の業績および当社グループにおける今後の取り組みにつきましてご報告申し上げます。

平成26年11月

取締役社長 阿久津郁夫



当第2四半期連結累計期間のエレクトロニクス業界は、引き続きスマートフォン端末を中心に半導体市場は総じて好調に推移しました。

このような情勢の下、装置事業は三次元実装市場の本格的な立ち上がり依然として遅れていることから苦戦を強いられておりますが、材料事業がスマートフォン端末の堅調な需要に支えられ、エレクトロニクス機能材料はアジア・北米地域を中心に、高純度化学薬品はアジアを中心に出荷数量を伸ばすとともに、円安による収益押し上げ効果もあり、売上高、利益ともに前年同期を大幅に上回ることができました。

なお、当期の中間配当金は1株当たり26円と予定しておりましたが、業績等諸般の事情を勘案するとともに、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、4円増配の30円とさせていただきます。また、期末配当につきましても、中間配当と同額の30円の予想に修正いたしました。これにより、年間配当金は1株あたり8円増配の60円を予想しています。

当社グループでは、3ヵ年計画の「tok中期計画2015」の達成に向け、諸施策を推進し、収益力をはじめとする事業インフラの強化を通じてものづくりの力を高め、今後も持続的な成長が可能な経営基盤の構築に努め、株主の皆様のご期待に応えられるよう邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。





### Q 第85期第2四半期の業績と取り組みについて

当第2四半期は、装置事業は今後の主力製品と見込むシリコン貫通電極形成システム「ゼロニュートン®」での積極的な取り組みを行った結果、新規受注を獲得することができました。その結果、同市場の本格的な立ち上がりは、遅れているものの、売上は前年同期と同水準を維持しました。

一方、材料事業は半導体製造の先端プロセスで需要が拡大しているArF（フッ化アルゴン）液浸フォトレジストなどの高付加価値製品がアジア・北米地域で好調に推移したほか、今後の成長が期待されるMEMS用フォトレジストは北米地域を中心に売上を伸ばすことができました。また、高純度化学薬品におきましても、

半導体チップの微細化の進展とともに従来以上の品質を求められる中、ユーザーの要求を満たす事のできる製品を提供することで、アジア地域を中心に販売は好調に推移しました。その結果、売上高は前年同期比7.6%増の420億円57百万円となりました。

利益面におきましては、高付加価値製品の売上増加に伴う、プロダクトミックスの改善に加え、円安による収益押し上げ効果もあり、営業利益は67億7百万円（同32.9%増）、経常利益は70億80百万円（同22.8%増）、当期純利益につきましては48億95百万円（同31.4%増）となりました。

### Q 通期の見通しについて

材料事業は、半導体用フォトレジストや高密度実装材料が引き続き好調に推移するほか、高純度化学薬品においても、引き続きアジア向けの出荷数量の増加を見込んでいます。

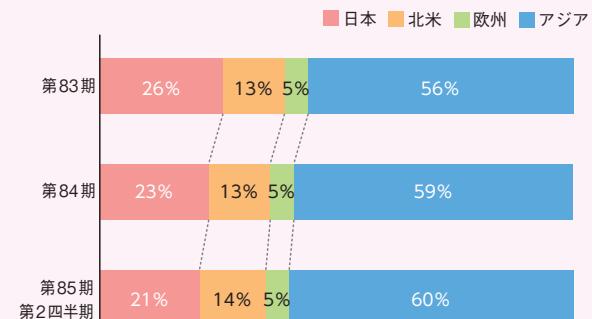
また、装置事業におきましても、三次元実装向け装置の売上増加により、期初予想には届かないものの営業黒字化を見込んでいます。

2015年3月期の通期業績予想につきましては、上期実績の上振れに加え、下期においても半導体市場はスマートフォン向けを中心に好調に推移すると見込んでおり、材料事業は期初予想を上回る売上伸長を見込んでいることから、期初計画と比較し売上高42億円増、

営業利益27億円増の上方修正を行っています。

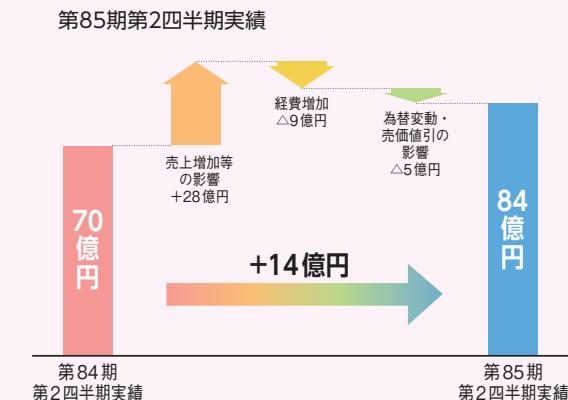
修正後の通期業績予想といたしましては、売上高877億円、営業利益125億円、経常利益128億円、当期純利益88億円の増収増益を予想しています。

#### ● 半導体用フォトレジストの地域別売上構成



※ 韓国新会社の稼働による販路変更を考慮した実勢ベースの数値を使用しております。

#### ● 営業利益の増減内訳（材料事業）



#### ● 研究開発費／設備投資額



#### ● 第85期通期の見通し

	金額	前期比
売上高	877	16.5%増
営業利益	125	24.7%増
経常利益	128	4.3%増
当期純利益	88	16.6%増



材料事業は前年同期を上回りましたが、装置事業は前年同期と同水準を維持しました。

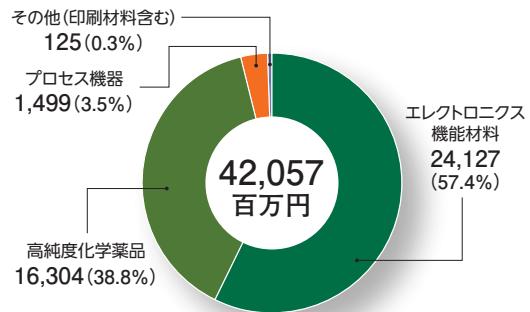
材料事業は、エレクトロニクス機能材料において半導体用フォトレジストの最先端品や高密度実装材料が堅調に推移したほか、高純度化学薬品におきましても、海外向け製品の需要増加により、売上は前年同期を上回りました。

一方装置事業は、液晶パネル製造装置の売上減少に加え、三次元実装市場の本格的な立上りの遅延等により、前年同期と同水準で推移いたしました。

この結果、材料事業の売上高は、405億57百万円（前年同期比8.0%増）、内部取引を除いた装置事業の売上高は、14億99百万円（同1.8%減）となりました。

部門別売上高構成

単位：百万円



( )内は売上高構成比率

材料事業

エレクトロニクス機能材料部門

売上高 **24,127**百万円

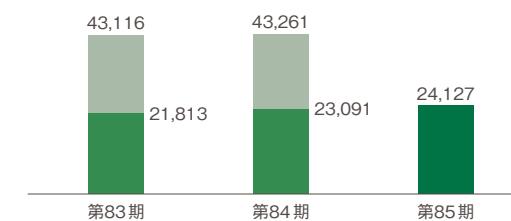
前年同期比4.5%増



半導体用フォトレジスト

半導体用フォトレジストは、引き続きアジア・北米地域向けを中心に最先端製品の出荷数量が増加し、売上は前年同期を上回りました。一方、液晶ディスプレイ用フォトレジストでは、高精細ディスプレイ向け製品および汎用製品ともに需要環境の変化により低調に推移し、売上は前年同期を下回りました。

●部門別売上高推移 (単位：百万円) □=通期 ■=第2四半期



高純度化学薬品部門

売上高 **16,304**百万円

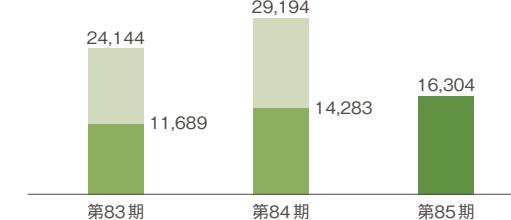
前年同期比14.2%増



フォトレジスト付属薬品

半導体用フォトレジスト付属薬品は、アジア地域における需要拡大を背景に好調に推移したため、売上は前年同期を上回りました。また、液晶ディスプレイ用フォトレジスト付属薬品も、アジア地域が堅調に推移し、売上は増加しました。

●部門別売上高推移 (単位：百万円) □=通期 ■=第2四半期



装置事業

プロセス機器部門

売上高 **1,499**百万円

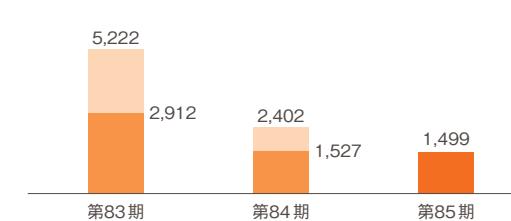
前年同期比1.8%減



ゼロニュートン®用ウエハ貼付装置「TWMシリーズ」

シリコン貫通電極形成システム「ゼロニュートン®」は、アジア地域を中心に新規受注を獲得し、売上・受注ともに前年同期を上回ったものの、装置事業の売上は前年同期と同水準で推移しました。

●部門別売上高推移 (単位：百万円) □=通期 ■=第2四半期





連結損益計算書の概要

損益の状況

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前第2四半期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで
売上高 <b>PICK UP ①</b>	42,057	39,071
売上原価	25,745	24,930
売上総利益	16,311	14,141
販売費及び一般管理費	9,604	9,094
営業利益 <b>PICK UP ②</b>	6,707	5,047
営業外収益	543	914
営業外費用	170	194
経常利益	7,080	5,767
特別利益	622	0
特別損失	37	225
税金等調整前四半期純利益	7,665	5,542
法人税、住民税及び事業税	2,060	1,667
法人税等調整額	410	△71
少数株主損益調整前四半期純利益	5,194	3,946
少数株主利益	298	220
四半期純利益	4,895	3,725

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

**PICK UP**

①売上高

材料事業において、エキシマレーザー用フォトレジトや高純度化学薬品、高密度実装材料が好調に推移したため、前年同期を上回りました。

②営業利益

材料事業での高付加価値製品の販売数量が増加したのに加え、円安による収益押し上げ効果もあり、前年同期を上回りました。

連結貸借対照表の概要

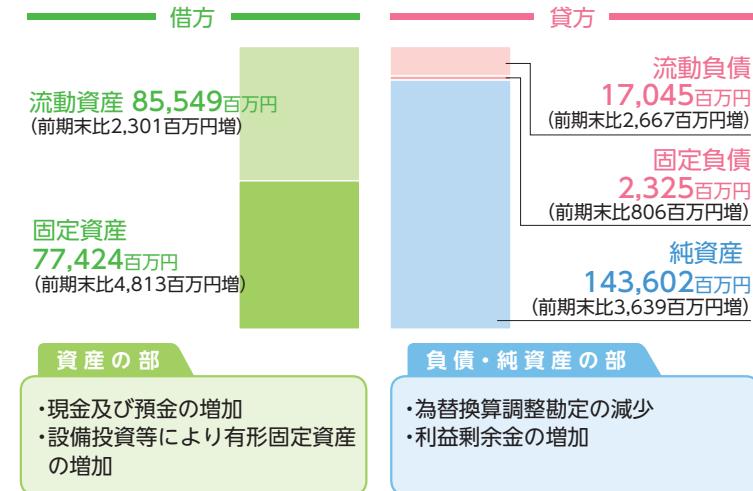
資産の状況

自己資本比率 **85.8%**

総資産・純資産の推移 (単位：百万円)



▶ 第85期 (平成26年9月30日現在)



連結キャッシュ・フローの概要

連結キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは増加

税金等調整前四半期純利益や減価償却費ほか、仕入債務の増加により増加。

投資活動によるキャッシュ・フローは減少

有形固定資産の取得による支出により減少。

財務活動によるキャッシュ・フローは減少

配当金の支払い等により減少。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,447	11,881
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,537	△14,491
財務活動によるキャッシュ・フロー	△809	△2,471
現金及び現金同等物に係る換算差額	△333	1,058
現金及び現金同等物の増減額	1,767	△4,023
現金及び現金同等物の期首残高	39,157	43,181
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,925	39,157

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。



より詳しい情報につきましては、当社のホームページ <http://www.tok.co.jp/> をご覧ください。



## 三次元実装を可能にする シリコン貫通電極形成システム「ゼロニュートン®」

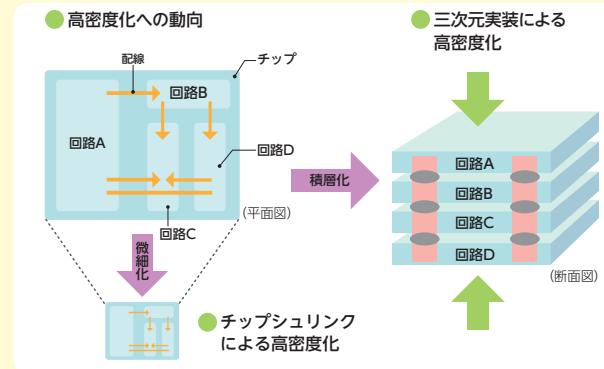
現在、半導体デバイスの最先端回路の線幅は10nm\*台まで微細化が進み、物理的に理論限界域に近づいているとの見方があります。そのような中でも、スマートフォンやタブレット端末などの電子機器では、さらなる高集積化による高機能化が求められています。半導体デバイスの高集積化に向け、従来から進められてきた回路の微細化と並行して、ウエハを薄片化させ、それを積層化し、層間を貫通電極で通電させる三次元実装技術が注目されています。

当社ではこの技術に対応するべく、長年培ってきた微細加工技術や材料、装置を扱っている強みを活かし、M(Materials)&E(Equipment)戦略として、材料と装置の両面から開発を進め、ウエハの薄片化を可能にするウエハハンドリングシステム「ゼロニュートン®」を製品

化し販売しております。今後も引き続き微細加工技術を活かし、電子機器の高機能化に寄与する製品の開発に注力し、ユーザーニーズに合致した製品を提供してまいります。

\*nmは10億分の1m

### LSIの高密度化



〈イメージ図〉

## 個人投資家説明会を開催



当社では、個人投資家の皆様と直接ふれあい、当社グループの事業内容や今後の動向などを知っていただくために「個人投資家向け会社説明会」を開催しています。

当期は東京、大阪、名古屋、福岡の4都市にて開催し、いずれの説明会も大勢の方々にご参加いただきました。今後も、投資家の皆様の当社への理解促進を図ると共に、当社グループの社会的認知度の向上を目指して、個人投資家向け会社説明会を随時開催してまいりますので是非ご参加ください。

※開催日につきましては、当社ホームページにて随時お知らせいたします。



### 株式の状況

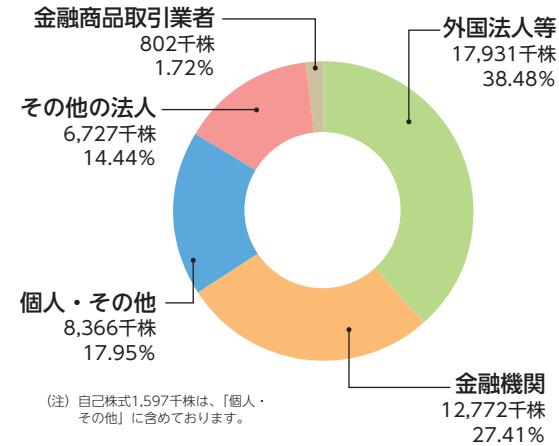
発行可能株式総数	197,000,000株
発行済株式の総数	46,600,000株 (自己株式1,597,850株を含む)
株主数	7,418名

### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
明治安田生命保険相互会社	1,826	4.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,649	3.66
エムエルピーエフエス カストディー アカウント	1,494	3.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,351	3.00
CBNY-EDGEPOINT GLOBAL PORTFOLIO	1,267	2.82
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,207	2.68
株式会社横浜銀行	1,026	2.28
公益財団法人東京応化科学技術振興財団	984	2.19
三菱UFJ信託銀行株式会社	953	2.12
三菱UFJキャピタル株式会社	860	1.91

(注) 1 当社は、自己株式を1,597千株保有しておりますが、上記大株主から除いております。  
2 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いた株式数(45,002,150株)を基準に算出しております。

### 所有者別株式分布状況



### 会社概要

社名	東京応化工業株式会社 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.
設立	昭和15年10月25日
資本金	14,640,448,000円
従業員数	1,532名 (連結) (出向者11名を除く)
本社所在地	〒211-0012 川崎市中区中原中丸子150番地 電話044 (435) 3000 (代表)

### 役員

#### 取締役および監査役

代表取締役社長	取締役	取締役	取締役	取締役	取締役	取締役	取締役	常勤監査役	監査役	監査役
阿久津 郁夫	岩崎 光文	駒野 博司	佐藤 晴俊	水木 純雄	栗本 弘嗣	田澤 賢二	室 幸一	新米 保誠	田 克	米 一巳

(注) 1 取締役栗本弘嗣氏は、社外取締役であります。  
2 監査役室 幸夫、監査役新保誠一および監査役米田克巳の各氏は、社外監査役であります。

#### 執行役員

※ 執行役員 社長	阿久津 郁夫
※ 専務執行役員 営業本部長	岩崎 光文
※ 常務執行役員 経理本部長	柴村 洋一
※ 常務執行役員 経営企画室長	萩原 嘉博
※ 執行役員 新事業開発室長	駒野 博司
※ 執行役員 開発本部長	佐藤 晴俊
※ 執行役員 材料事業本部長	岩崎 純雄
※ 執行役員 総務本部長	水木 國雄
執行役員 営業本部副本部長	柴垣 篤
執行役員 プロセス機器事業本部長	藤下 一俊
執行役員 TOK先端材料株式会社代表理事副社長	張 俊
執行役員 営業本部副本部長	山田 敬一
執行役員 材料事業本部副本部長	佐竹 信和
執行役員 開発本部副本部長	佐藤 和史

(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しております。